

会 議 録

会議の名称	第4回特別支援ネットワーク協議会
事務局	小金井市教育委員会学校教育部指導室
開催日時	平成22年10月28日(木) 午後3時より午後5時まで
開催場所	小金井第一小学校 ミーティングルーム
出席者 (26名)	<p><委員></p> <p>小林美都江(学校教育部長)</p> <p>豊岡 弘敏(指導室長)</p> <p>鈴木 遵矢(庶務課長)</p> <p>前島 賢(学務課長)</p> <p>尾崎 充男(生涯学習課長)</p> <p>天野 建司(企画政策課長)</p> <p>佐久間育子(障害福祉課長)</p> <p>高橋 茂夫(健康課長)</p> <p>川村 久恵(子育て支援課長)</p> <p>小野 朗(保育課長)</p> <p>門田 順子(児童青少年課長)</p> <p>國松 順(小金井特別支援学校長)</p> <p>渡邊 孝之(私立幼稚園協会代表)</p> <p>鈴木 律子(民間保育園園長会代表)</p> <p>渡辺 真紀(P T A連合会代表)</p> <p>堀 恵(特別支援学級保護者会代表)</p> <p>村岡 輝一(障害者センター所長)</p> <p>浜井 一郎(公募市民)</p> <p>馬場 利明(公募市民)</p> <p><臨時委員></p> <p>佐野 志保(ピノキオ幼稚園保護者)</p> <p>小野山 直美(せいしん幼稚園保護者)</p> <p>尾島 聖子(小金井特別支援学校保護者)</p> <p>小川 瑠美(通級指導学級保護者)</p> <p>小野 満理(田無特別支援学校高等部保護者)</p> <p><事務局 ></p> <p>神田 恭司(指導室長補佐)</p> <p>高橋 正恵(庶務課長補佐)</p>

傍聴の可否	㊦ ・ 一部不可 ・ 不可
傍聴者数	4 人
傍聴不可等の理由等	なし
会議次第	1 あいさつ 2 自己紹介 3 協議 (1) 協議会の開催時間について (2) 臨時委員について (3) 特別支援教育推進上の課題について 4 事務連絡
主な発言 要旨	1 あいさつ (小林部長) お集まりありがとうございます。第1回協議会では取組報告及び講演会があった。その中で就学時や就労時の課題があげられた。第2回は、臨時委員についての提案、またそれぞれの立場からの特別支援教育推進上の課題を出し合った。第3回では、課題を整理した。整理した課題は、 ①保護者によっては、自分たちの問題として受け止められない人もいる。 ②就学前・就労への連続性が円滑でない。 ③発達支援センターの設置。 本日は整理した課題をもとに課題解決に向けて協議していく。 2 自己紹介 ・ 委員からの自己紹介 (全委員) 3 協議 (議長は小林部長) (1) 開催時間について ・ 【資料2】のアンケート結果のとおりである。3時～5時とした。次回も希望をとる。(事務局) (異議なし) (2) 臨時委員について ・ 臨時委員を紹介する。よろしく願います。本協議会開催時に保育所として別の部屋を設置した。保育課から保育士を配置した。(事務局) (3) 特別支援推進上の課題解決に向けて

- ・第3回協議会で残されたことを説明する。

一つ目は、小金井市の特別支援の実態について調査等を実施するか」について、児童・生徒の実態については指導室で一定状況はつかんでいる。数値等は、気付きの問題や独り歩きの恐れがあり控えるが、増えている傾向にある。

二つ目は、「調布市『i-ファイル』の使用の仕方について」(資料4をもとに概要説明)(事務局)
- ・ここまでのところで確認したい。(小林部長)
- ・増えている傾向にあることの説明を求める。(浜井委員)
- ・固定学級、通級指導学級の児童生徒数は増えている。気付きの問題もあるが、全体も増えていると思われる。(事務局)
- ・東小学校の特別支援学級の開設もあり、全体像の把握が必要ではないか。(浜井委員)
- ・実際に増えているので増設する。中学校についても考えていかねばならない。(事務局)
- ・この協議会は、特別支援にかかわる庁内各部課及び教育機関との連携を図り、施策を総合的に推進することや特別支援にかかわる事業内容の進捗状況の確認及び課題の抽出を行い、それらの改善点について協議する。関係部局に質問はよいが、解決を迫るような要望は避けていただきたい。(小林部長)
- ・一つ目の課題「保護者によっては、自分たちの問題として受け止められない人もいる。」について、ご意見をお願いします。(小林部長)
- ・本町小学校に副籍をしている子供がいる。本町小で子供に話す機会があったがよく聞いてくれた。副籍制度をぜひ活用して欲しい。(尾島委員)
- ・二小では特別支援学級があり、障害児への理解が進んでいるように感じる。四小は、特別支援学級がないので全く違うように感じる。特別支援学級のない学校との交流ができるとよい。(堀委員)
- ・副籍や交流は、障害のある子にもない子にも双方について利点がある。社会性を身に付けたり、差別や偏見をもたないようにすることができる。東京都で第三次特別支援教育推進計画の骨子が示されており、全ての小中学校に特別支援教室を設置する構想がある。そこから進めていくことも考えられる。(事務局)
- ・幼稚園、保育園に入る前に児童館幼児グループに参加しよう

としたら、他の子についていけないのでやめた方がいいと言われた人もいる。他の親と交流できる場があるとよい。(佐野委員)

- ・児童館の担当であり、障害児の受け入れをする方針なので調べて指導させていただく。(門田課長)
- ・意識付けのために乳幼児の頃に説明が欲しい。学齢のころにも説明が必要だと考える。子供は、通常の学級に入ることができたが、同級生に病気なのかと聞かれた。学校の先生に対応を任せるのではなく、市として一定の方針などがあれば先生も対応しやすくなるのではないか。教員間の情報共有も必要ではないか。(馬場委員)
- ・教員の認識は大変重要である。教員同士の知識の共有を図っていききたい。(豊岡室長)
- ・資料5「特別支援教育講演会」の報告をする。8月27日に市民、教員を対象に講演会を萌え木ホールで実施した。—子供たち一人一人のもてる力を高める—と題し、4部構成で実施した。参加者は59人で、市民は16人、教員が43人だった。(事務局)
- ・講演会が次回あったら、ぜひ他の方にも声をかけて参加を促して欲しい。(小林部長)
- ・二つ目の課題「就学前・就労への連続性が円滑でない」について、ご意見を願います。(小林部長)
- ・小金井市「就学支援ファイル」について、就学相談の時に配付。就学時健診の際に置いておくようにした。(前島課長)
- ・資料の就学支援ファイルは現在使用しているものか。保護者はどこに記入するのか(馬場委員)
- ・現在使っているものである。面談票は教育相談所で就学相談を受ける場合に保護者と共に記入する。(前島課長)
- ・子供は特別支援学校適と言われたが四小へ行った。その後、二小へ行った。就学支援ファイルはどこで誰が使っているのか。対応がよくわからないと言われたことがある。(堀委員)
- ・この就学支援ファイルでは、生きた情報にならないと感じる。現場の先生の力量によるところが大きい。(小野満委員)
- ・就学支援ファイルは、校長宛親展で送付している。学校では、校内委員会を組織し、特別支援教育コーディネーター等が中心となって対応しているはず。(事務局)
- ・就学相談に来た子のみ就学支援ファイルを作成していると言

うことだが、就学前ノーマークの子の対応が大変だと言う話がある。養護教諭も特別支援教育の研修は受けているか。先生の対応により子供の対応も変わる。親向けの便りに特別支援教育について書かれることはまずない。お便りで知らせることがあってもよい。車いすの体験の授業はあるが、情緒、知的障害の理解についての授業もして欲しい。(小野満委員)

- ・人権教育の中で障害について学習している。(豊岡室長)
- ・本人も家族も気付いていないケースこそ議題とすべきではないか。(馬場委員)

- ・学校へ入学してから障害が発見されるケースがあるのではないか。前回委員から発言のあった5歳児健診の小金井市の状況はどうか。(村岡所長)

- ・就学支援シートを就学時健診の会場に置いておくこととした。強制的にはできないが、今後、ホームページにも掲載し、保護者が記入し、学校に提出できるようにしたい。(前島課長)

- ・5歳児健診について都医師会の単独事業、上げ方式で進めている。小金井市内の医療機関では、まだ実施しているところはない。(高橋課長)

- ・学校に入ってから障害に気付くということもある。巡回相談、校内委員会等で対応している。その結果、通級指導学級に繋がったケースもある。(事務局)

- ・清瀬の資料が配布されている。八王子も就学支援ファイルを悉皆でしている。他に有効活用している例があれば、その活用についてまた議論したい。(馬場委員)

- ・学務課で他市の状況を調べてみる。(小林部長)

- ・三つ目の課題「発達支援センター」について、ご意見を願います。(小林部長)

- ・けやき、ピノキオ幼児園の移転について検討をしている。ピノキオ幼児園の施設を利用して発達支援を実施したいと考えている。(小野課長)

- ・ピノキオ幼児園の枠は広げる形で検討しているか。(浜井委員)

- ・広げる予定である。園舎開放でも6人来た。(小野課長)

- ・施設面の希望があれば願います。(小林部長)

- ・3階に作る予定か。(馬場委員)

- ・3階を予定している。(小野課長)

- ・将来的に、発達支援センターとして単独施設として考えてい

るか。(渡辺真委員)

- ・今のところ担当もそこまでは答えられない。(小林部長)
- ・相談窓口をつくるということか。(小川瑠委員)
- ・そのように考えている。(小野課長)
- ・相談は就園前か、就学前か。(小野満委員)
- ・慎重に検討すべきところと考える。(小野課長)
- ・18歳までの相談とならないのか。できないとしたらなぜか。(馬場委員)
- ・施設面を考えると80平方メートル程度であり、成人までは難しい。(小野課長)
- ・障害児枠が余っていると聞く。入所要件の緩和ができないか。(浜井委員)
- ・別枠での検討をしている。緩和はされている。(小野課長)
- ・発達支援センターについて、強く求められている施設であることは認識している。(小林部長)

4 事務連絡

- ・次回のネットワーク協議会は2月ごろ開催予定である。(事務局)